●特集●学校変革の焦点

教師の高齢化にどう対応するか

静岡大学教授
馬居政幸

何が問題か

「小学校教員は平均四〇歳を越える」

これは昨年（九六年）一〇月二二日号の『内外教育』のサブタイトルである。内容は文部省による九五年度「学校教員統計調査」についての報道。本文の冒頭に、「国公私立を一括して初等中等段階の教員について見ると、少子化による新規採用者の減少に伴い、若年層の比率が下がって高齢化が進み、小学校では平均年齢が七七年度に本格的調査が始まって以来初めて四〇歳を越えた」とある。

小学校教員の平均年齢が四〇歳を越えたという事実をサブとはいえ見出しに掲げ、その概要を本文冒頭に記載したということは、九五年度の教員統計が示唆する問題の中心に教員構成の高齢化があることを示している。だがこの指摘に基づき、現在の学校が既に高齢化の段階にあるとして、教師の高齢化に対応した学校経営の課題を論ずるとすれば、問題の本質を見誤るであろう。その理由は、次に示す小学校教員の平均年齢の推移である。

八六年度　三九・四歳
八九年度　三九・五歳
九二年度　三九・六歳
九五年度　四〇・五歳

小学校教員の平均年齢は一〇年前に既に三九・四歳、一〇年間で一・一歳上昇したにすぎない。もし、現状を高齢化と位置づけるなら、その問題への対応は過去一〇年間に生じた事象とかかわって論じることになる。しかし、次に示す小学校教員（九五年、九二年）の年齢構成を見ていただきたい。

	九五年	九二年
二五歳未満	二・九%	四・三%
二五～三〇歳未満	一一・五%	一三・四%
三〇～三五歳未満	一五・一%	一三・九%
三五～四〇歳未満	二〇・七%	二一・〇%
四〇～四五歳未満	一九・一%	一六・〇%
四五～五〇歳未満	一三・九%	九・七%
五〇～五五歳未満	八・四%	七・二%
五五～六〇歳未満	七・五%	九・四%
六〇歳以上	〇・九%	〇・九%

現在の小学校の教員構成は、四十代が三三%、最も多い四十代前半と三十代後半を合わせれば三九・八%になる。この極端に膨らんだ年齢構成の一〇年後と一五年後を想像してほしい。もし、これまでと同様に、少子化に伴う学級減を新規採用者の減少で対応し続けるなら、現在の四十代が五十代になる一〇年後には三人に一人が五十代、一五年後には二人に一人が五十代の学校も生じるであろう。

問題は年齢構成だが

もちろん、未来は不確定、安易な予測は慎むべきである。だが、現在のいびつな教員構成の原因である少子化傾向は止まりそうにない。その証拠は本年一月、期待した団塊ジュニアの出生率の上昇が望めないことから、厚生省が日本の将来推計人口を下方修正したこと。少なくとも、昨年生まれた子どもの総数が前年の一一九万人から横バイの一二〇万人であったため、今後六年間は小学校への入学児童の増加は望めない。その必然として、中学生はプラス六年間、高校生はその三年後すなわち一二年後まで減少し続ける。

他方、過去一〇年間の少子化に伴う減少に対しては、四〇人学級の実施に続く第六次公立義務教育諸学校教職員配置改善計画（平成五年度～一〇年度）により、個に応じた多様な指導の展開を目的に約三万人の増員が図られてきた。この間の自然減が約六万人であることから、教員の減少は政策的に半数に抑えられていたわけである。だが、この処置は来年で終了する。加えて、行財政改革の流れは新たな改善計画策定を困難にしている。

少子化傾向は止まらず、政策的にも新たな増員が望めないとすれば、若い教師の減少に歯止めがきかなくなるのは必定である。その結果、一〇年後の教師の年齢構成の高齢化は、前記の予測より早まることが想像できる。ただし、教員構成は想像できても、三人に一人や二人に一人が五十代という学校経営の在り方を少なくとも私は想像できない。だが、これまでの延長で考える限り、一〇年を待たずして、そのような小・中学校が生まれることは確実。どうすればよいか。平均年齢の上昇を危惧する前に、今後一〇年を射程におき、五十代教員の増加を止め若い教員を増やす戦略と戦術を早急に論議し、実践に移すべきである。そのための処方への私見を三点指摘したい。

新たな市場の開拓を

その一つは一番単純なこと、膨らんだ部分を縮め、引っ込んだ部分を膨らます方法である。すなわち、現在の三十代、四十代教員の学校外への再配分による新規採用者枠の創出である。ただし、それは人員整理ではなく、積極的な事業創出とセットである。

少子化とは子ども対象の業界が構造不況業種に陥ったこと。その結果、民間企業では、改革に失敗すれば、市場の論理（競争と消費者の選択）で調整（淘汰？）される。だが、公的機関として身分を保証された学校では、改革に伴うリスクとコストを教師ではなく子どもたちに支払うことを求めてこなかったか。少なくとも新規採用者減に伴う不利益を最も被るのは、祖父や祖母に近い人たちが多数派を占める世界で教わらなければならない児童・生徒であることを忘れてはならない。

もし、学校は多様な年齢の教師で担われるべきとの考えに同意する一方で、今後の教師の高齢化がかつて経験したことがない現象であることも認めるなら、旧来の慣行や価値観

よりも、若い教師獲得への戦略とその実践化への戦術を優先させるべきではないか。そのための手がかりとして、不況産業が陥ったときにとる手を学校に即して紹介したい。

❶新市場の開拓（潜在的需要の喚起）
→開かれた学校＋生涯学習機関

❷商品の高付加価値化（単価を上げる）
→新しい学力観＋真の学舎（中教審）

❸ノウハウ・資源を生かす転業
→文化、福祉分野への進出

具体的には、まず昇進と連動して教育界のみを移動する縦型の人事システムを見直すべきではないか。そのためには、少子化は高齢化でもあることを戦略的に捉え、増加の要請が予測される生涯学習や福祉施設等の専門職へ移動する道を開くべきである。このことを代表に、中堅教員が多様な専門性を活かして移動できる職種・職場を積極的に開拓することにより、横型の人事システムへの転換が必要と考える。その戦術として、既に進行中の学校施設の生涯学習センター化や文化・福祉施設との複合化に加えて、行政システムの改編も視野においた教育資源全体の再配分が必要である。さらに、より大きくこのシステム改編を世界に類例のない超高齢社会に向かう日本の社会システム全体の転換の中に位置づける戦術も重要である。日本の教師の質は世界で最も高く、学校は巨大な人材のプールである。その人たちを新たな高齢社会にソフトランディングするための貴重な教育・文化・福祉資源として積極的に評価すべきである。

ネットワーク型経営システムに

二つ目の処方は発想を逆にして、教師の高齢化をプラスに評価する学校経営を構想する戦略。厚生省によれば老年期のスタートは、今後、六五歳から七〇歳に変更される。単に財政上の問題のみでなく、実際に六十代では自らを高齢者として位置づけることに抵抗感を持つ方が多いことが背景にある。その意味で、教師の高齢化といっても、四十代から五十代の教師が増加するだけ。むしろ、肉体のエネルギーは二十代や三十代に劣るが、教師としての力量が最も高まる年代の人たちが多数派になると位置づけることも可能。

加えて、前述したように、多様な分野に学校を開くとすれば、当然、日常の校務で学校外の多様な人や機関との連携が重要になる。子どもたちへの教育では若さのパワーが重要だが、学校の外との交渉では経験の価値の方が優位になる確率が高い。また、子どもの教育においてもパワーだけでは対処できない問題がある。その代表が親との関係。現在の少子化は戦後二度目の現象、親もまた少子世代であることを忘れてはならない。両親に期待され大事に育てられた子どもが親になり、初めて抱く嬰児が自分の産んだ子である場合が多い。受験勉強中心に育った男女でもある。子育てのノウハウを学習する機会がないままに親になった父母が大多数とみて間違いない。この親たちに家庭の教育力の低下を非難することはかえって問題の解決を困難にする。既に幼稚園や保育園で試みられているように、これからの学校教育は子どものみでなく親子共に学ぶ世界として構想すべきである。これこそ経験を積んだ教師の出番である。

このような四十代、五十代教師の積極面を活かすには、学校経営の在り方を従来の校長を最上位におくピラミッド型システムから、個々の教師が自律して行動するネットワーク型システムに転換する必要がある。たとえ校長が上位者としての権限で集権的に指導力を発揮しようとしても、同年輩の教師が多数いる状況の中でどこまで機能するか疑問がある。さらに、学校が地域をはじめ多様な分野に開かれるということは、教師への要求が多様になることであり、さらに、新学力観や中教審が指摘する「生きる力」の育成は、個々の子どもに応じた指導がポイントである。いずれもキーワードは多様性。学校全体の統一や学年単位のレベル合わせを優先する経営システムでは対応できなくなる。加えて、学習者の多様性は教師の臨機応変の柔軟な支援によってこそ育まれる。

いずれも、教師一人ひとりの個性を認める一方で、自己責任の領域を明確にした自律型システムが合理的。このような経営システムでは、教頭や各主任は担当する職務遂行に関わる教職員（必要に応じて学校外も含め）を相互に結び合わせるコーディネーター、校長はそれらを全体として有機的に機能させるために必要な「ひと、もの、こと」を準備するプロデューサーとして位置づけられよう。

この自律型ネットワークシステムが円滑に機能する前提条件は、教師の教育実践に対する評価の在り方。学習者による評価が組み込まれたシステムにする必要がある。そのポイントは教師間の教育過程における情報公開。これは特別なことではない。新学力観に基づく体験・活動重視やTTの展開、あるいは中教審答申に示された「生きる力」を育むために必要な総合学習は、いずれも学級王国的システムでは有効に機能しないはず。また、「知識・理解」に代わって「関心、意欲、態度」を重視し、支援のための評価を強調する評価観こそ学習者による評価を組み込んだシステムである。加えて、このシステムは地方分権と規制緩和の流れが合わさった学区弾力化への要求とシンクロする。弾力化の意図は教師が強制的に教育するシステムから、学習者が自己のニーズに応じて選択するシステムに学校を転換させることにあるからである。

サービス業としての自覚を

三つ目の処方は、現在四十代教師の新たな意識と生き方の醸成。前述したドラスティックなシステム転換を要請する状況の変化に、高齢化の主体としていかに積極的に対応できるかが課題である。その第一歩は現行のヒエラルキーシステムの上昇やその裏返しとしての生涯一教師という生き方に限定する自己評価観から自由になること。教師としての選択肢を多様な分野に拡大する生き方に挑戦し続けられるかどうかである。

加えて、たとえ意欲は高くとも、過去の経験に固執すれば迷惑するのは子ども。未来に生きる人たちに過去の教訓では役立たない。二一世紀を生きる人たちへの教育には、やはりその時代を積極的に担うことが可能なエネルギーが不可欠。少ない若い教師が全力で活躍できる舞台をいかに用意できるかが、四十代、五十代教師の真の力量である。そのためには、情報機器や異文化に挑むことで柔軟な思考と感性を培い、不断の自己学習で過去の経験をリニューアルし続けることが求められる。そして最も重要なことは、教師としての自己認識を、多種多様な人たちの学びを支援するサービス業として位置づけられるかどうかであることを、最後に強調しておきたい。

H

悠 HARUKA

1997 6 月号

目次 CONTENTS

特集 学校変革の焦点

【対談】教師の自己変革 ……鴻野日出男・上條さなえ ….12
◆通学区域の弾力化がもたらすもの …… 葉養正明 ….18
◆広がる特例措置 …… 下村哲夫 ….22
◆生きる力を育てる「総合的な学習」とどう取り組むか ……有園　格 ….26
◆教師の高齢化にどう対応するか …… 馬居政幸 ….30

【シリーズ】教育スクランブル
広がり見せ始めた部活動 ……93
●部活動の問題点と今後のあり方 ……大平　滋…94
●ルポ 子どもの声に応えた多彩な講座が可能に（秋田市） ……96
●ルポ 地域人材の積極的活用図る（長岡市） ……98
●部活動の新たな展開へ ……100

カラーページ
●現代五十三次紀行【吉原宿】 ……高田　宏…3
●木造校舎―心のふるさと【新校舎】……武田信夫…56
●自然と出会う【森の囁き】 ……山下喜一郎…58
●芝居小屋ぶらり旅【素朴なはなやぎ】 ……大崎紀夫…60
●科学の目【出回り始めた遺伝子組み替え農作物】…山本猛嗣…111

●心に残るひとこと 大條成昭 ·54
●ニュース解説 ……66
●NEWS SPOT '97 ……68
●TOPICS ……70
●研究会案内 ……71
●ようこそわが校へ〈愛媛県・大瀬中〉 ……91
●BOOKS ……102
●レッツ トレッキング⑱ 岩崎元郎…108
●教育キーワード ……109
●編集室 ……110

●階段の知恵㉗例外の原則化 ……森　隆夫…34
●学校経営を問い直す㉙新しい教育課題に対応する教育課程経営 ….天笠　茂…42
●新任校長奮闘記㉛「マンネリ化」にならない経営姿勢を…齋藤昭次…44
●学校事件を読む㉝宙に浮いた職務命令 ……下村哲夫…46
●武将に学ぶリーダーの群像⑮友情に殉じた決断【大谷吉継】 ..百瀬明治…50
●学校の人間学㉑「先生は…」「先生方は…」……飯田　稔…76

●ルポルタージュ 焼津市立大富中学校〈授業研究〉……編集部…38
特別企画　O-157に対する学校の課題
O-157対策　学校がすべきこと ……杉下順一郎…72
インタビュー　実態に即した先手先手の備えを……尾木和英さん…74
●放課後の子どもたち㉛運動能力過去最低時代の部活 ·汐見稔幸…78
●いじめ対応の手がかり⑮教師と保護者との溝を埋める …高橋良臣…80
●コンピュータ活用 Ver.2㉛
コンピュータ活用のタイプ別使い方 2 ……苅宿俊文…83
●心のリフレッシュ⑮ウツ友だちとビールを飲もう ……菅野泰蔵…84
●［短期連載］分権と教育㉛ ……浅野素雄…86
●総合的な学習とその生かし方㉛
「総合的な学習」と検討課題（下） ……有園　格…88

●ふれあい 浅からぬ縁 ……舟橋和郎… 8
●私の考える「生きる力」㉛「自問自答」をこの胸に！…八ツ塚　実…10
●外山滋比古のアットランダム㉚嘘の白黒 ……52
●教育の顔㉚千石　保さん ……安達拓二…63

表紙＝栗駒山夏景〈宮城県・栗駒町〉　写真提供＝フォト・オリジナル

〔監・編集〕河野重男（東京家政学院大学長）／宮原　修（お茶の水女子大学教授）
豊かな学力を育てる ―実践課題と技法
学力をめぐる論点整理／基礎的・基本的学力をめぐる実践課題／関心・意欲・態度をめぐる実践課題／思考力・判断力をめぐる実践課題／表現力をめぐる実践課題／学力の評価をめぐる実践課題／実践例多数
B５判／2238円＋税

〔監・編集〕奥田眞丈（東京都立教育研究所長）／高階玲治（国立教育研究所室長）
「生きる力」100の課題徹底理解
「総合的な学習」の実践マニュアル／シリーズ1!!100設問で「生きる力」育成の要所・難点を分析。全項目実践のポイント明記、関連データ100点整備。クロスカリキュラム研究の第一人者が実践的に編集。
B５判／2233円＋税

教育「大変な時代」・全６巻
〔監・編集〕新堀通也／祐宗省三／原田　彰／高倉　翔／牧　昌見／市川昭午
1 教育「大変な時代」
2 子ども「大変な時代」
3 子育て「大変な時代」
4 学校「大変な時代」
5 教職「大変な時代」
6 学校管理職「大変な時代」
大好評完結!!
各Ａ５判／本体1942円＋税
★第一線の錚々たる著者団を結集し，克明な現状分析と具体的克服策を多彩に提示!!
広く学校・家庭・教育行政に衝撃を与え，講演資料などとしても大好評!!

9年度対応
別冊教職研修（校長・教頭・指導主事選考への対策講座）
〔基礎対策・全５冊〕→全冊在庫僅少!!　各777円＋税
〔直前対策・全７冊〕→No.５（４月15日）発売／Ａ５判・781円＋税／全７冊注文殺到中!!

〒113 東京都文京区本郷３-５-２ **教育開発研究所** TEL. 03（3815）7041 FAX. 03（3816）2488

児童心理 6月号臨時増刊
しかり下手な親・教師のための
しかり方・ほめ方入門
心に残るしかり言葉・ほめ言葉
みなみらんぼう、マリ・クリスティーヌ、市田ひろみ・他
しかり下手の心理（星一郎）／生きる力を育むしかり方・ほめ方（幼児期・児童期・思春期）／しかり上手・ほめ上手な親・教師になるには／しかり言葉・ほめ言葉をみがく
好評発売中！　定価1020円（税込）

児童心理 6月号
特集 **学校ぎらい ―不登校の子をどう援助するか**
学校ぎらいの心理とその背景 ……真仁田昭
教師・親は「なぜ学校へ行くのか」に答えられるか …天笠　茂
●「不登校」「登校拒否」というレッテルをはっていないか
●担任は学校ぎらいの子とどうかかわるか ●不登校の子どもを抱えた家族の心理●不登校対応Q&A
《新連載》子どもをみる眼③ ……大木みわ
《連載》田と子の精神分析⑥ ……小此木啓吾
特別企画 **教師の生涯発達 ―つまずきと成長［Ⅲ］** 秋田喜代美
スペシャル・トーク **いま家庭に必要なもの** ミュージシャン タケカワ ユキヒデ
好評発売中！　定価720円（税込）

教師の使えるカウンセリング
國分康孝 著　現場で生かせる発想と技術
最新刊●四六判本体1900円（税別）

学ぶこと・教えること ―学校教育の心理学―
鹿毛雅治・奈須正裕 編
最新刊●Ａ５判本体2300円（税別）

子どもの発達と教育
⑦**子どもが心を理解するとき**
子安増生 著　最近の発達心理の研究成果を分かり易く解説。
⑩**デザイナーとしての教師 アクターとしての教師**
吉崎静夫 著　教師に求められる実践的授業力を詳述。
四六判本体各1600円（税別）

〒112 東京都文京区大塚３-３-７
☎03-3941-0111 FAX03-3941-0163
金子書房